

第V章 「片の川」 刻印瓦と旧片野川村について

1. 刻印瓦について

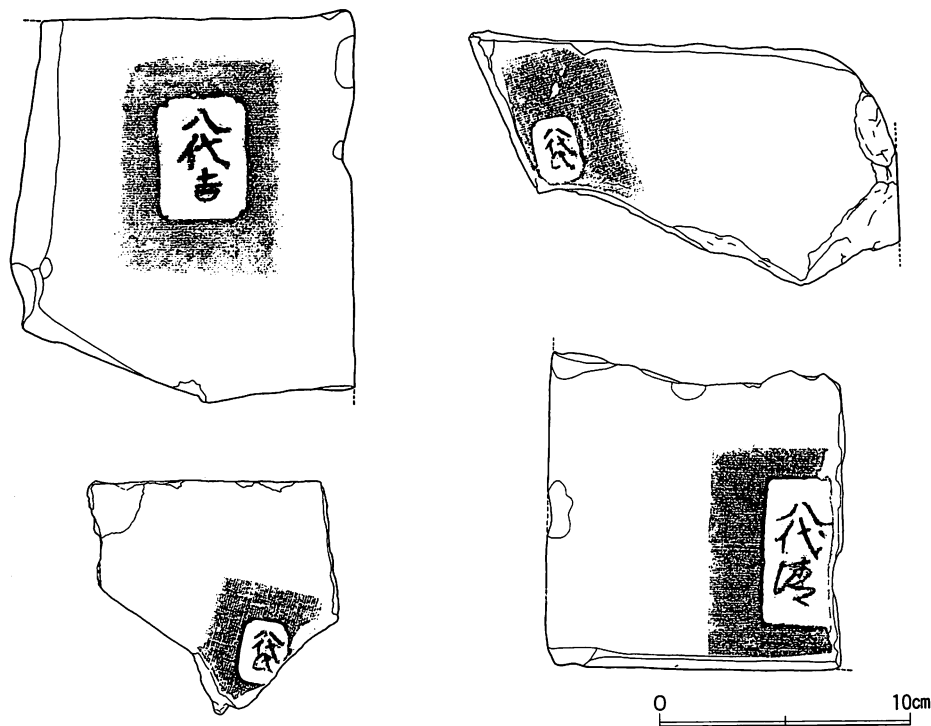
八代で江戸時代に用いられた瓦の刻印は、今日まで「片の川」を含めて「八代氏」「八代吉」「八代清」「井」の計5種類が確認されている。

「片の川」以外は、いずれも八代・松江城跡からの出土で、御用瓦師によって焼かれたものである。刻印名の「八代」は八代の瓦師という意味で、後に続く氏・吉・清は屋号の一種と考えられる。「八代吉」は、同市日奈久町からの出土例があり、この事から同地周辺に松井氏・御用瓦師（八代・松江城）の工房跡を比定できる。

刻印の位置は「片の川」が瓦の先端部であるのに対し、城跡内からのものは瓦の凹面部で異なっている。

一方、「片の川」は、江戸時代末期から明治時代の初期まで製造されており、窯では瓦のみならず、火舎・盤・人面瓦・大黒瓦の製品も焼かれている事が、今回の発掘調査で明らかとなった。また、昭和55年に発掘調査が行われた東片町の方見堂遺跡からも出土している。

刻印名の「片の川」は旧片野川村の村名であり、片野川村の瓦師との意味であろう。



第40図 〔参考〕 八代松江城跡出土の瓦

2. 片野川村の変遷

遺跡所在地の「字辺田の前」の地名は、文書・文献等に記載がなく、字図による字名である。

周辺一帯を含めた旧村の事については、慶長十年(1605)の肥後国絵図と慶長十二年の検地帳に、上片野川・北片野川・下片野川の三村があり、17世紀末の元禄肥後国絵図では下片野川村から分村して四村に増えている。18世紀後半の「肥後国誌」には、上片野川村に高取という小村の記載があり、この事により、辺田の前の地は江戸時代に上片野川村の高取という小村に属していた事がわかる。

これらの小村が今日では、「上片町」「東片町」「西片町」「中片町」に変遷している。

慶長肥後国絵図	慶長12年検地帳	元禄肥後国絵図	肥後国誌	備考(比定地)	現在
上片野川村	上片野川村	上片野川村	一ノ門 黒竹 鴨牟田 高取 上一丁田 茶臼塚	字高取 字一町田 茶臼山古墳	上片町
北片野川村	北片野川村	北片野川村	成願寺 門前 田平 岡神	成願寺跡 字岡神	東片町
下片野川村	下片野川村	下片野川村	閑清 広間 乙田 十楽 泉丸 妙楽寺 稲 朴ノ花	「立間」か？ 「乙田」か？ 「明楽寺」か？ 字稲村	西片町
		中片野川村	木下 弥永 一町田 岩道 稲木 リウサン 西蓮 畑中 松丸 木屋敷	字一町田 「西林寺」か？ 字松丸	中片町

第29表 片野川村の変遷一覧表